

は、「ほとんど欺かれるところであった」と言われた。そして、ことごとくその賊共を焼き滅した。そこを名づけて焼津という。

ヤマトタケルの受難の地は、古事記においては、相武国（相模国）、日本書紀においては駿河国となっている。受難の地は近世から様々な解釈がなされている。『静岡県史 通史編』においては、「焼津については、延長五年（927）撰進の『延喜式』神名帳に、駿河国益頭郡の焼津神社、同有度郡の草薙神社、同廬原郡の久佐奈岐神社が見え、いずれも祭神を日本武尊と伝えていて、『日本書紀』の伝承を裏付けている。」とし、駿河説を支持している。

『静岡県史 通史編』にもあるとおり、有度山の北側には、日本武尊を主祭神とする草薙神社があり、現在も草薙という地名が残っている。

江戸時代末期に書かれた『駿国雑誌』には、「有渡郡巡村記伝。本郡草薙村草薙神社は、日本武尊を祭る處也。・・・」と記載がある。草薙神社は創建1900年を超える神社であり、9月30日に例祭が行われる。例祭に近い休日には県指定無形民俗文化財の「草薙神社龍勢花火」が奉納される。



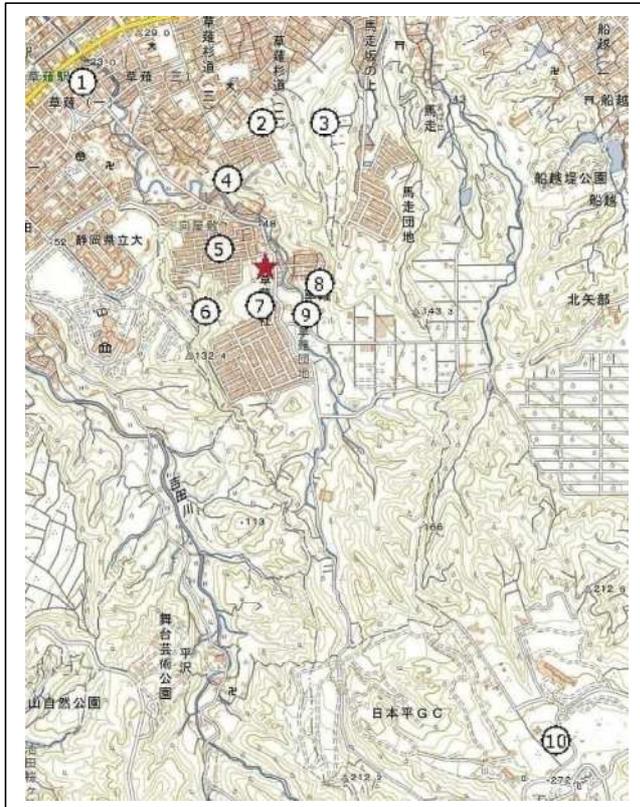
草薙神社



草薙神社の日本武尊像

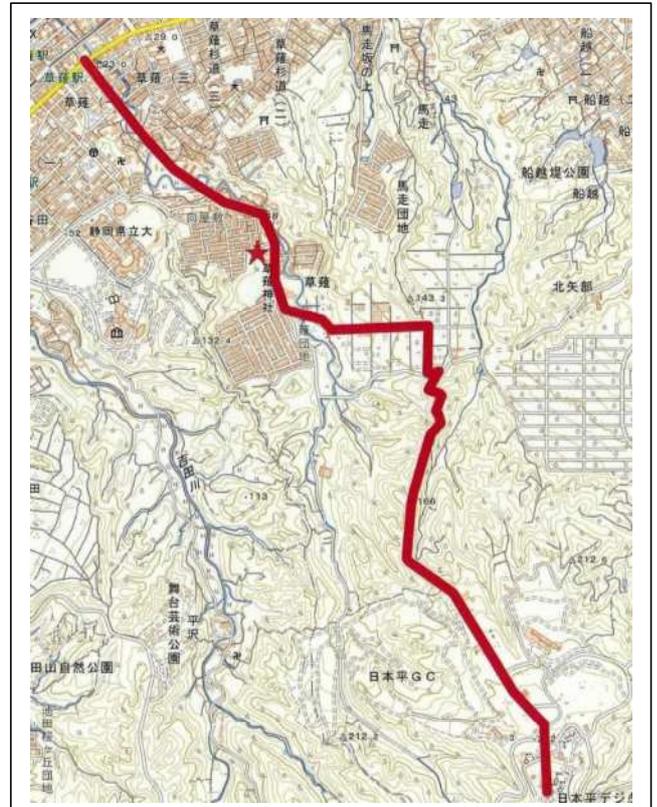
草薙神社周辺には、日本武尊の伝説に関連する地が多数存在する。明治期に記された「式内草薙神社取調書」や大正15年4月6日付け静岡民友新聞において、由緒のある地が記録されている。また、有度地区と日本平は伝説的な繋がりだけでなく、アクセス面でもつながりをもっている。現在、草薙神社前から日本平山頂にかけてハイキングコースが整備されて

いるが、草薙神社によると、江戸時代では草薙神社前から日本平にかけての土地は神社領であったという。



日本武尊伝説に関連する地点

出典：国土地理院地形図（加工）



草薙地区からのハイキングコース

出典：国土地理院地形図（加工）

草薙周辺のヤマトタケル伝説が残る場所

① 天皇原、古宮

天皇原

景行天皇が日本武尊を偲び、この地を行幸した時、鳳輦を留めた場所と伝えられ、この地に天皇の神霊を遷した天皇社（明治末年草薙神社に合祀）を建て祀った。

古宮

草薙神社が最初に創建された所。古伝では、景行天皇 53 年、天皇が東国に巡幸の時、日本武尊を偲び社を建てたという。現在小社が存在する。

② 首塚、血流川、大将塚

首塚、首塚稻荷

日本武尊が征伐した賊徒の首を埋めたと伝えられる場所である。後世、野狐の栖が多くなり、一社を建て稲荷の神（字迦之魂）を勧請した。

血流川

首塚社の北側の谷を流れる小川

大将塚

「式内草薙神社取調書」において、日本武尊伝説に所縁ある地として「首塚の前にあり」と記録される。

③ 駒ヶ原

日本武尊が駒を放ち、草を与えた所という。クマンバラという。

④ 東護^{とうご}の森

日本武尊が自ら伊勢大明神を奉祭し、皇軍東征の幸を祈ったという。

⑤ 柳ヶ澤

日本武尊が狩りをした時昼食に柳を折って箸とした所。草薙神社の祭事には必ず柳箸を使用している。

⑥ 御座^{みま}の松

日本武尊が狩りの時、松を折り敷き、憩いをとった場所といわれ、松の下に小祠を建て、大山祇を祀る。

⑦ 御犬ヶ森

日本武尊が狩りの時、犬を放った所という。かつて犬の栖があったと社記に記されている。(神社の南方)

⑧ 鞍下ヶ谷

日本武尊が野火の難にあったとき、鞍を降りたところ。

⑨ 御手水^{ちみづがや}ヶ谷

日本武尊が狩りで汗をかいた折、ここの清水で手を洗われた所という。

⑩ 日本平^{にほんだいら}

「賊を打ち払った後、日本平で四方を見渡した」、「日本武尊が草薙のつるぎを振るって敵からの難をのがれた神話によって、日本平と呼ばれたのがその名の由来」等の伝説が残され、昭和42年(1967)には日本平ホテル駐車場にヤマトタケル像が建造された。

3 久能山東照宮、史跡久能山

徳川家康薨去後、元和3年(1617)霊廟として創建された久能山東照宮本殿・石の間・拝殿は、平成22年12月24日、国宝に指定された。権現造社殿は江戸幕府における造営組織の草創期において、その礎を築いた中井大和守正清の代表的な遺構の一つとして貴重であり、東照宮建築のうち、最初期の社殿として、我が国の建築史上深い意義を有すと評価された。その他、社殿13棟(唐門、東門、廟門、渡廊、玉垣、廟所宝塔、末社日枝神社本殿、神庫、神楽殿、神饌所、鼓楼、神廐、楼門)(廟所参道、銅灯笼2基、棟札10枚附指定)が国の重要文化財に指定されている。久能山東照宮博物館には、徳川家康ゆかりの歴史資料などが多く収蔵、展示されている。

史跡久能山は、名勝日本平の南側と隣接し、久能寺の旧跡及び築城史上の好例、さらに家康の葬地たる由縁をもつ東照宮の鎮座地として、歴史上価値のあるところとして、昭和34年6月17日、名勝日本平と同日、史跡指定された。

4 文学碑等

文学碑 (『文学碑に見る清水～郷土資料集第2集～』平成14年清水市教育委員会 参考)

日本平には文学に関する石碑が多数存在している。遠方の父母を思う清水出身の防人の歌を記した万葉の歌碑や、日本平の広大な眺望を歌った尾上紫舟の歌碑が存在している。また、歌詞碑も建立されており、不遇な生涯を送った少女を歌う童謡「赤い靴」や茶どころ静岡の代表的な民謡である「ちゃっきり節」の歌詞碑を見ることができる。



万葉歌碑 (昭和39年2月建立)

うどべのうしまる
有度部牛麿が詠んだ歌。「水鳥のたちの急ぎに父母に物言ず来にて今ぞ悔しき」第二次世界大戦で息子を亡くした父母が建立。



赤い靴の母子像 (昭和61年建立)

「赤い靴はいてた女の子 異人さんにつれられて 行っちゃった」の童謡「赤い靴」のきみちゃんの母(かよ)の出身地が清水市であったことにより建立



ちゃっきりぶし民謡碑 (ちゃっきりぶし民謡碑建設委員会、昭和41年建立)

碑には、1番と4番の歌詞と、楽譜の一部が刻まれている。ちゃっきり節誕生40周年の昭和41年に、北原白秋をしのび建てられた。昭和2年静岡鉄道が狐ヶ崎遊園開園を記念して、北原白秋に作詞依頼。



日本平観光地百選首位当選記念碑

おのえさいしゅう
 日本平観光地百選の碑の裏面に尾上柴舟の歌碑
 「のぼりきて顧みすれば大富士と肩を並べてわれ立つごとし」とあったが現在は風化しほとんど読めない。

【その他石碑、石造物】



昭和 54 年日本観光地百選第一位入選記念碑
 (清水市・静岡市)



水祝神社 (日本平山頂水源地、昭和 39 年竣工)

水の神を祀る。かつて日本平は水源がなく、水に苦勞していたが、静岡鉄道が水脈を確保し、さく井に成功した。



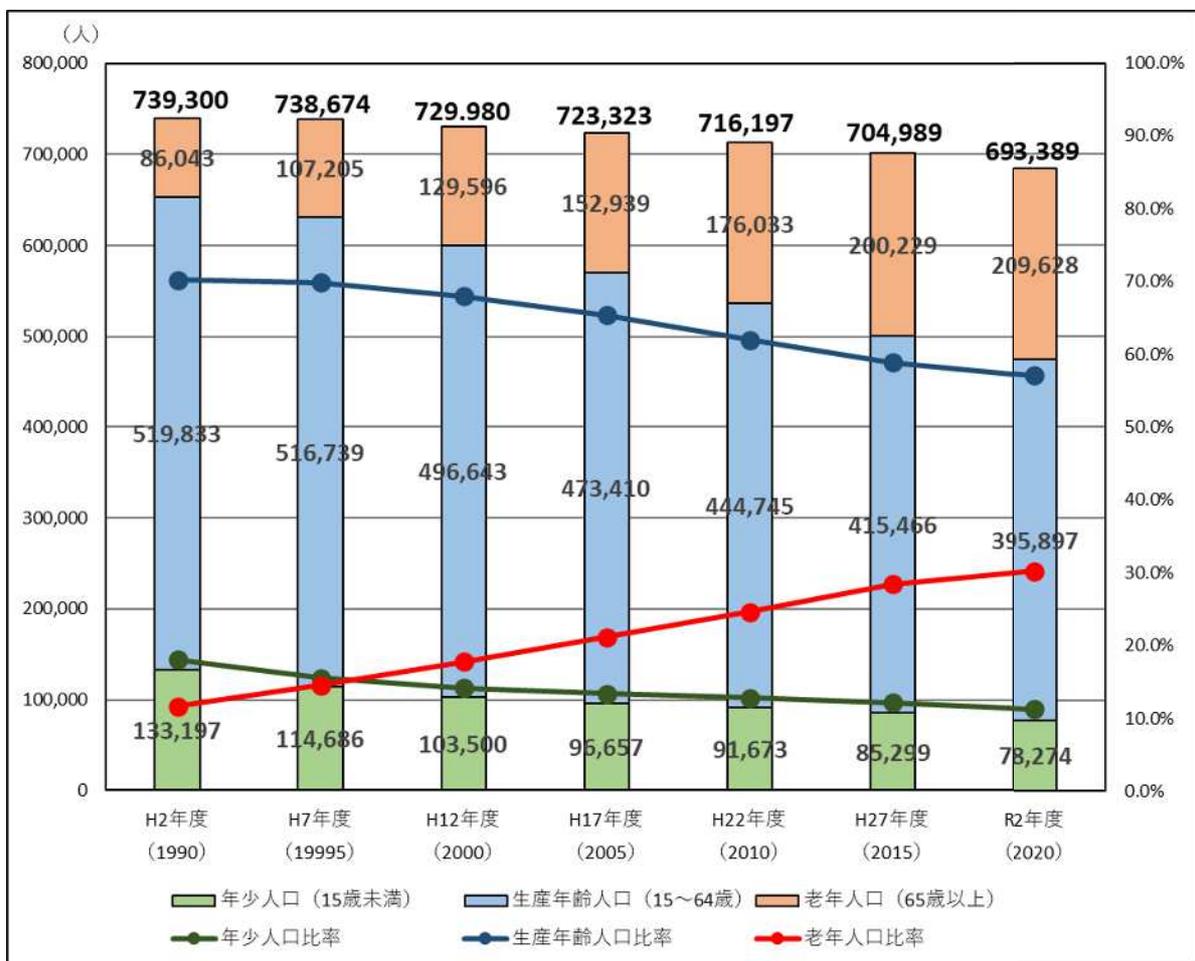
平成 27 年 富士山世界文化遺産登録記念碑
 右「眺望の地富士山」、左「草木国土悉皆成仏 国土は富士なり」

第7節 社会的環境

1 人口動向

本市の人口は令和7年（2025）10月末現在668,359人である。平成2年（1990）の739,300人をピークに人口減少に転じている。市が行った将来人口推計によると、令和13年（2031）には630,930人、令和23年（2041）には558,240人、33年（2051）には488,367人まで減少することが予測されている。

年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢化が進行している。令和4年（2020）時点で65歳以上の高齢者が総人口の3割を超えている。人口減少が続くと、小売りや飲食などの生活関連サービス水準の縮小、税収入減少による市民サービスの低下、地域公共交通の縮小、空き家・耕作放棄地の増加、地域コミュニティの機能低下など様残に影響を及ぼすことが予想される。



静岡市の人口の推移表

出典：各年次国勢調査（総務省） ※合計人口は「詳細不明」を含む。

2 産業構造

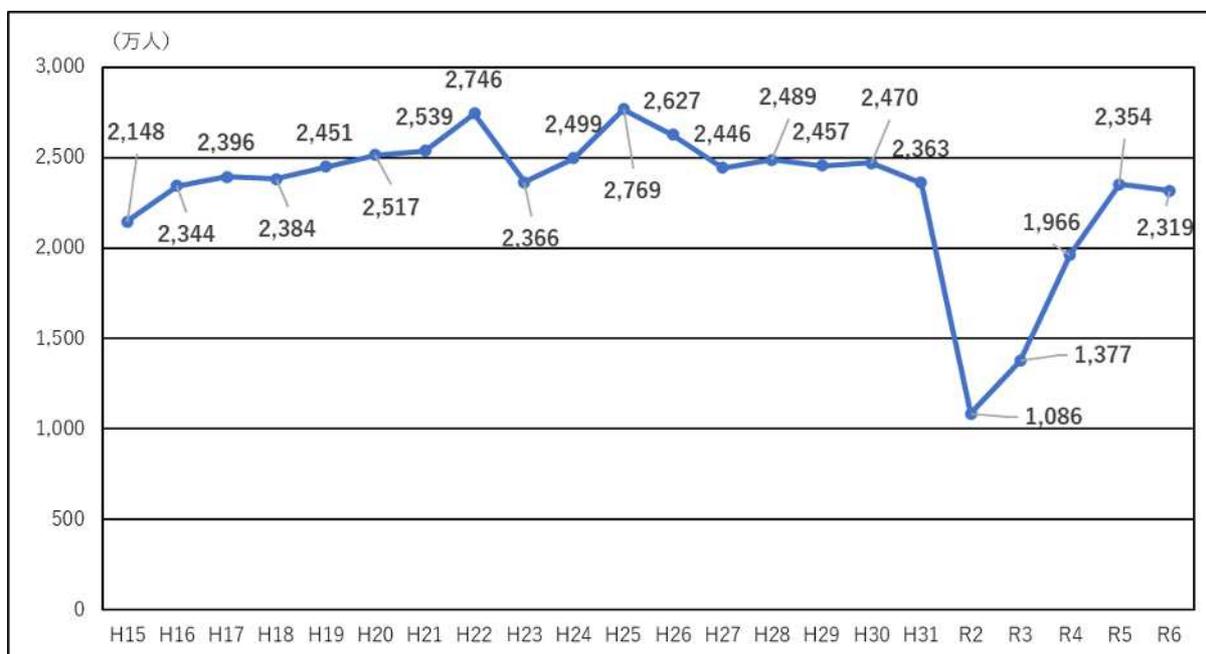
本市の産業は、第1次産業から第3次産業までが多彩にバランスよく集積しており、家具、プラモデルなどの地場産業や電気機械器具製造業、製造現場に装置等を供給するはん用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、清水港で水揚げされる水産物を利用した食料品製造業、臨海部に立地する化学工業などの産業が集積し、歴史に生まれ、高度な技術を持つ企業が地域に根付いている。

日本平を含む有度山においては、丘陵上の東麓にかけて茶やミカンの栽培がおこなわれているほか、久能山南側の斜面地を利用したイチゴ栽培も盛んである。

3 観光

富士山の眺望地として多くの観光客を誘致し、静岡市の観光の中心地となっているが、年間観光入込客数の推移では、昭和52年の約280万人をピークに減少に転じ、平成17年では約138万人と半減した。（「平成19年度日本平公園計画報告書」平成20年静岡市より）。平成30年度の夢テラス開館後は、令和元年度199万人、令和5年度は163万人となっている。

一方、本市の令和6年（2024）度の「観光交流客数」は2,319万人である。平成25年（2013）度には富士山が世界文化遺産に登録され観光客数が増加しており、それ以降は、若干の減少後、ほぼ横ばいであった。新型コロナウイルスの影響により、令和2年（2020）度には半数以下に減少したが、令和5年度にはほぼ回復した。



静岡市観光交流客総数の推移

出典：令和6年度静岡県観光交流の動向 静岡県（年度別市町別観光交流客数の推移）

エリアごとにみると、この10年間で観光客数が増加しているのは、日本平・登呂であり、平成30年（2018）11月の日本平夢テラスのオープンによる影響が見られる。令和6年度は、観光地としては、江尻・日の出地区に次ぐ、交流客数となっている。

区分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
井川	116,181	108,348	99,192	98,264	70,759	72,766	80,418	87,792	105,982
梅ヶ島	60,015	64,332	54,909	49,597	42,309	43,096	46,770	39,904	49,140
丸子・宇津ノ谷	376,935	369,075	310,122	270,439	123,896	164,896	193,306	223,759	254,885
静岡駅周辺	5,739,993	5,182,376	4,626,388	4,692,097	667,676	1,345,400	3,804,220	5,669,122	5,513,540
東静岡駅周辺	1,438,827	1,377,868	1,198,822	1,297,814	240,512	430,945	649,177	708,456	823,977
日本平・登呂	4,808,358	5,085,120	6,312,225	6,205,164	3,655,071	4,103,204	5,351,599	5,980,973	5,448,385
三保・折戸	1,112,683	994,973	887,558	930,250	490,899	462,038	780,777	557,052	530,188
江尻・日の出	6,856,570	6,840,480	6,843,062	6,551,007	2,903,951	3,783,751	4,915,146	6,038,788	6,301,207
興津	486,669	505,848	489,337	459,179	270,641	314,757	394,263	406,957	188,410
両河内	96,433	101,597	82,503	67,823	49,828	46,185	48,890	41,633	48,941
蒲原	104,345	85,417	100,225	88,366	7,965	9,954	65,772	73,410	87,774
由比	250,121	267,969	218,136	97,262	37,782	67,657	85,063	158,878	175,521

静岡市内の主要地点で集計した観光交流客数

出典：ふじのくにオープンデータカタログ 観光交流客数

日本平の主な年間行事

日本平では、季節に応じた行事が催されており、来訪者確保の一役を担っている。

① 日本平ウォーク

（2月）：富士山を望む景勝地である日本平を中心に、静岡市内の歴史的な旧東海道を含むコースを巡るウォーキングイベントであり、富士山の景観や静岡の名所を楽しみながら、地元の恵みで参加者の疲れを癒すことを目的としている。久能山東照宮までに石段を上るチャレンジコースと、日本平ハイキングコースを通るベーシックコースの2種類がある。このイベントは県内外から約1,000人が参加し、草薙総合運動場をスタートして、最長約18kmのコースを歩く。コースの途中には、チェックポイントが設けられ、地元のミカンや甘酒等がふるまわれる。日本平ウォークの収益金の一部は市へ寄贈され、日本平ハイキングコースの整備に役立てられる。

② 日本平梅まつり

(2月下旬)：日本平山頂付近にある梅園にて開催されるお祭り。紅梅や白梅などの約350本の梅が咲き、富士山との美しい景色が楽しめる。

③ 日本平まつり

(7月下旬)：日本平ホテル野外庭園が会場となり、芝生に寝ころびながら花火を楽しむ。約12,000発の花火が打ち上げられ、静岡の夜景と花火のコラボレーションが楽しめる。自家用車の来場はできないため、有料シャトルバスが運行される。

④ 日本平夜市

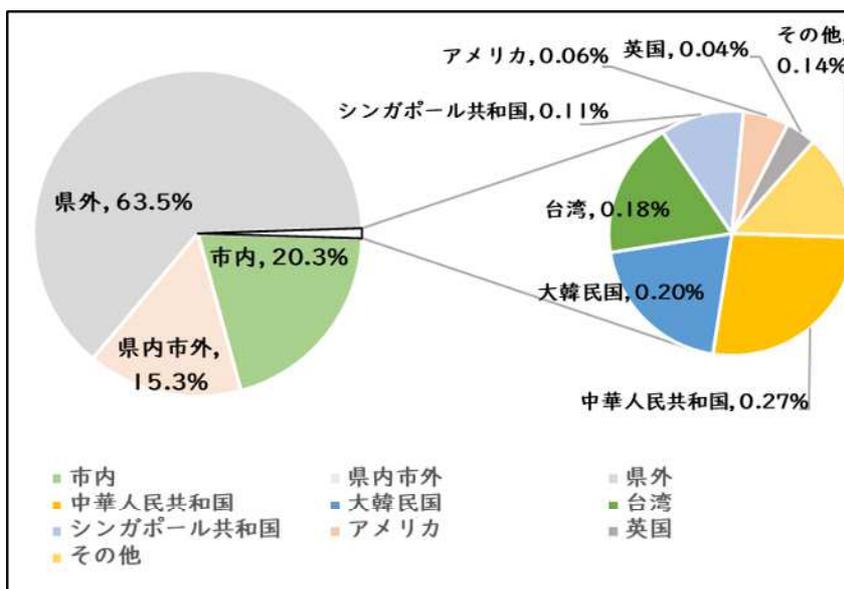
(通年 毎月第4土曜日)：毎月第4土曜日に日本平で開催される夜型マルシェで、地元の人から観光客まで、幅広い層が楽しめるイベントとして親しまれている。日本平夜市は、日本夜景遺産に登録された日本平の夜景を活かし、地域住民や観光客が気軽に楽しめる場所を提供したいという思いからはじまった。地元の有志が中心となり、10代～30代の実行委員会が運営している。夜市にはフードや雑貨など様々なお店が出店し、音楽演奏などのイベントも開催される。日本平は、かつて日本一の観光地として知られていたが、夜間は暗く怖いというイメージがあった。日本平夜市は、夜の日本平のイメージを一新し、誰もが楽しめる場所にすることを目指している。

来訪者の状況

来訪者の国籍では、ほぼ日本人の利用である。県外からが6割以上、市内からは約2割の利用である。一方で外国からの利用では、中華人民共和国、大韓民国、台湾、シンガポール共和国等の近隣アジアの国や地域からの利用が多くなっている。

利用者の年齢では、「50歳代」が最も多くなっている。

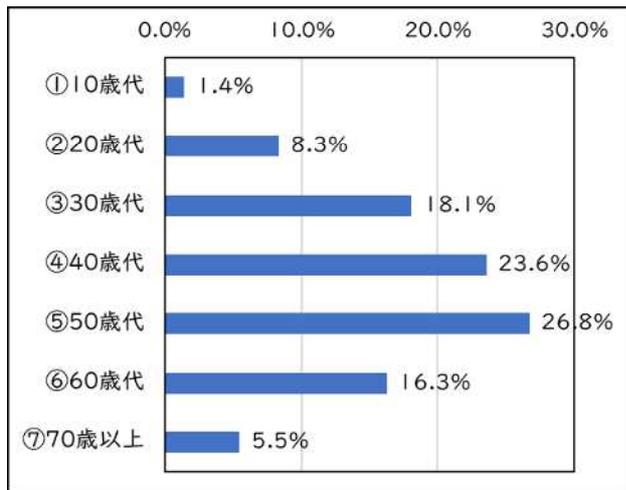
利用目的では、「風景鑑賞」、「各施設などの散策」、「写真撮影」等の目的での利用が多い傾向である。



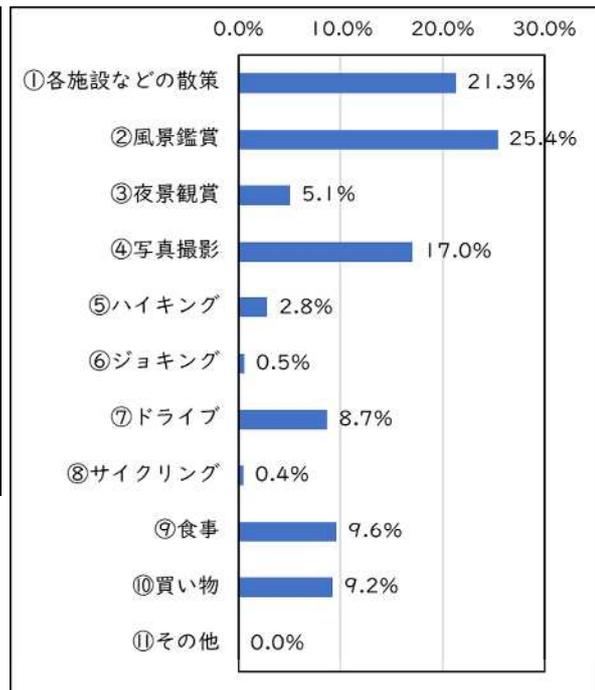
国内及び海外からの来園者割合（位置情報より集計）

調査期間：令和5年4月1日-令和6年3月31日

出典：静岡市位置情報（日本平夢テラス）を加工



日本平公園来訪者の年代
 調査期間：令和6年8月16日-令和7年1月31日
 出典：日本平公園利用者アンケート調査結果



N 値：1662
 日本平公園来訪者の年代別目的
 調査期間：令和6年8月16日-令和7年1月31日
 出典：日本平公園利用者アンケート調査結果

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
訪問者数	1,994,897	1,436,474	1,553,302	1,727,355	1,630,937	1,682,346

日本平観光レクリエーション客数（静岡市）

年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
人数	643,588	872,353	334,377	330,992	441,745	525,347	474,677

日本平夢テラス来訪者数の推移
 出典：日本平夢テラスの来館者数（静岡県）

4 交通

日本平山頂へは、旧清水方面、旧静岡方面からは日本平パークウェイ（現在は市道池田日本平線、市道清水日本平線）と市道旧道日本平線の各道路が唯一の自動車でのアクセスとなる。静岡方面からは、路線バスが乗り入れている。

平成24年（2012）、新東名高速道路が、新御殿場インターチェンジ・浜松いなさインターチェンジ間を開通した。

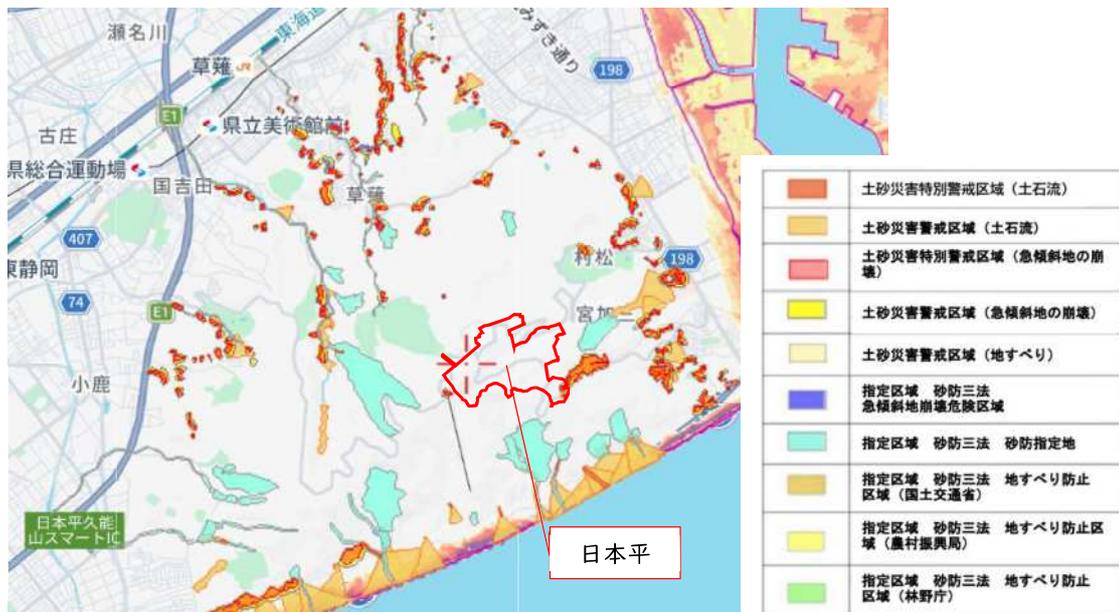
令和元年（2019）には、東名高速道路の日本平・久能山スマートインターチェンジが開通した。令和3年（2021）には、中部横断自動車道の静岡・山梨間が全線開通した。

5 災害・防災

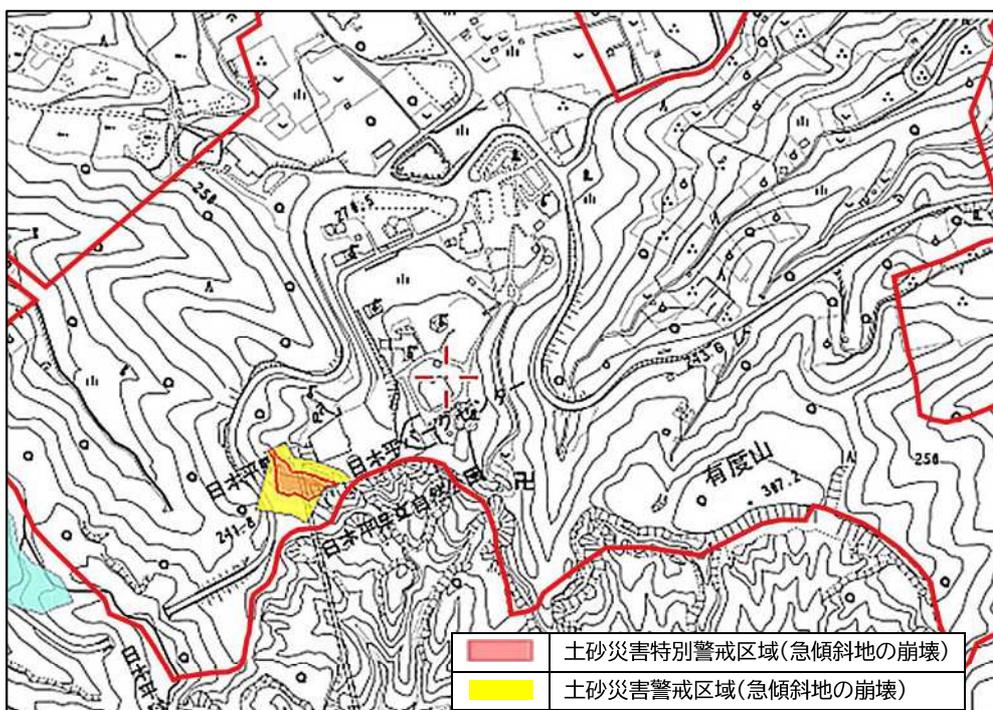
土砂災害

有度山丘陵は、大雨により土砂崩れをおこしている。

名勝日本平範囲においては、日本平ロープウェイ駅舎付近が、「土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）」及び「土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）」に指定されている。



静岡市地理情報システム（土砂災害関係）有度山周辺



静岡市地理情報システム（土砂災害関係）（日本平部分拡大）

火災

日本平の管轄は日本平消防署。防火水槽が日本平ゴルフ場入口付近にある。

第8節 他の計画との関連

本計画の検討、推進にあたっての関連する計画は次のとおり

1 『静岡県文化財保存活用大綱』【令和2年3月策定】

今後の静岡県における文化財の保存と活用の基本的な方向性をまとめている。基本理念「美しいふじのくにの文化財を県民総がかりで守り、誰もが親しみながら、未来へつなぐ」とし、1 文化財の確実な保存、2 文化財を支える多様な人材の育成、3 文化財の効果的な活用を基本方針として取り組む。

2 『第4次静岡市総合計画』2023～2030【令和5年策定】

- ・「世界に輝く静岡」の実現
- ・持続可能な開発目標「SDGs」の推進
- ・人と自然が共に生き、将来にわたって豊かな営みを続けながら暮らすことができるまち。
- ・歴史に育まれてきた多彩なしずおか文化に誇りと愛着を持つまち。

3 『静岡市文化財保存活用地域計画』令和7年～12年度（2025～2030）【令和6年12月策定】

静岡市の歴史文化の特徴を、1 川が作り出した静岡清水平野に広がる豊かな暮らし、2 連綿と続く政治と文化の中心地、3 街道の往来と人々の交流、4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化、5 オクシズに息づく伝統文化、6 海と共存する歴史文化、ととらえ、目指す将来像を「静岡市の文化財が活用され「市民の財産」として未来に継承される。」とした。

静岡市文化財保存活用地域計画は、文化財を将来に継承するための保存と活用について、文化財の所有者や文化財行政分野だけでなく、まちづくりや観光などの行政分野、市民団体等が連携して取り組むための方針や措置を定めた法定計画で、令和6年12月に策定された。この計画では、静岡市の歴史文化の特徴から6つの「関連文化財群」として設定し、一体的かつ総合的な保存・活用の取り組みを目指すこととしている。このうち、名勝日本平については、「関連文化財群4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化」に位置づけている。

4 『静岡市観光基本計画』

2024年12月～2031年3月【令和6年12月策定】

「観光政策を通じた持続可能な「住んでよし、訪れてよし」の国際都市の実現」を基本理念とし、市民生活の充実、喜びや観光による来訪者の満足度向上の2点を両立させる。静岡市の観光政策は、市民や関係者の理解や共感を得て、地域社会全体が一体となって取り組むこと、すなわち社会全体による共創により実現していくことが重要であり、本計画により本市が取り組む観光政策を可視化を明示している。

目標を観光消費額単価目標値の32,000円(7,090円アップ)、観光消費額単価目標値を7,200円(3,248円アップ)、宿泊者数目標値3,300,000人(1,280千人アップ)を目指す。

重点テーマ戦略を①美食、②絶景、③歴史、④ホビーとした。重点エリア戦略を①日本平・久能山・清水港・三保松原エリア、②東海道エリア、③オクシズエリア、④用宗^{もちむね}エリアとした。

5 『静岡市日本平公園基本計画』【平成19年策定】(*令和7年度現在改定中。記載内容は検討内容であり未定を含む)

平成15年(2003)『日本平山頂部展望施設等整備調査』(有度山一帯)実施。平成18年(2006)『日本平公園基本構想』策定。平成19年(2007)『日本平公園基本計画』策定。令和7年度現在、平成19年の策定から16年経過した日本平公園基本計画を、時代に即した内容に再構築中。

観光地域づくりを視点とした時代に即した体験の場と機会の提供によって、名勝日本平の価値と魅力を高め、時代に即した「日本平公園」となるよう検証・見直しを行いサステイナブルな観光地域づくりを目指す。

◆ 基本的な方向性

[基本構成]

- ・風景に特化した高質の静的空間を形成。
- ・観光基本計画を踏まえた「体験コンテンツの充実」に向けた様々な動的アクティビティの導入。
- ・公園における自然環境の多様な機能を活かし、グリーンインフラとして、自然に接し、心身の安らぎや学び、遊び等の場として積極的に活用。

[サステイナブル]

- ・公園やグリーンインフラによって「自然資本」を回復させ、持続可能な社会を構築。
- ・エコツーリズム、サステイナブルツーリズム等の観光需要の変化に対応する公園機能の向上。
- ・持続可能な公園経営を促進するため、公園利用における消費額の拡大、インバウンドの誘客促進等による運営管理を安定化。

[ウエルビーイング]

- ・グリーンインフラ機能の向上や、心豊かな生活を支える居心地のよい交流・滞在空間の強化により、地域社会の魅力度や幸福度の向上、観光・集客の競争力の強化に貢献。
- ・全てのこどもの健やかな成長、安全で安心して過ごすことのできる多様な体験活動や外遊びの機会の提供。

[公園利用の活性化]

- ・一年を通じて市民のレクリエーションや市民交流の場として地域活性化の中核を担う公園づくり。
- ・観光需要の拡大に向け、静岡市の特産である美食・絶景・歴史をテーマとしたアクティビティによる質の高い感動体験ができる公園づくり。
- ・公園区域を最大限に活用するため、パークアンドライド等の新たな交通システムの導入、将来的なクルマ社会に応じた駐車場規模の検証、三保松原等の周辺観光地からの回遊性を進展させる新たな交通手段等の導入。
- ・集客力を高めるために、カジュアル層からエグゼクティブ層までの幅広い利用ニーズに対応する高付加価値な宿泊施設や飲食施設、貴重な体験施設やプログラム等を提供。

◆基本テーマ・基本方針

①基本テーマ

「風景」の文化財的価値に加えて、市民生活の質的向上と、日本平が有する観光的価値を視点とし、富士山や駿河湾、伊豆半島、南アルプス等の遠景の視対象や、静岡、清水の中景の夜景といった変わらぬ風景に対し、公園整備による

- ・公園内のビューポイントや近景の構成要因の改善
- ・歴史文化の解説と演出
- ・様々なアクティビティの導入による非日常感の提供

を計画の骨子とし、日本を代表する絶景とともに、自然環境を最大限に活用した様々なアクティビティの導入や、歴史文化のストーリーを加えることで、季節や時間の移ろいととも、園内各所で観光資源としての質の高い驚きと感動が体験できる魅力づけと、日本平公園のブランディング化を強化する。

「風景美術館＝日本平」

～日本平の「驚きと感動」体験を支える日本一の展望公園を目指す～

②基本的な取り組み方針

取り組み方針①

目の前は日本一の眺望

<絶景>

○「季節が織りなす風景」

富士山を主景とした四周の風景と、園内の木々や草花が織りなす季節の移り変わりが、日本平の壮大な風景を創出し、いつ来ても感動の広がるビューポイントやシークエンスを設定

○「光が醸し出す風景」

1日の時間の中で山容を明瞭に見せる朝の風景、駿河湾から立ち上るもやで霞む日中の風景、日が沈む夕照、市街地の夜景、夜空の星の輝き等の光の風景を堪能する機能を点在させるとともに、「日本平夜市」やライトアップイベントによって夜間のアクティビティを提供

取り組み方針②

固有の歴史資源と遭遇

<歴史>

○「歴史が紡ぐ風景」

ヤマトタケルノミコトの時代を経て、日本平は家康公の東照宮に続く、1,400年余りの悠久の歴史をもつ久能山において、古くから多くの人々の信仰を集めてきた、かけがえのない聖地としての文化的風景を形成

取り組み方針③

賑わいと自然体験を提供

<アクティビティ>

○「人が奏でる風景」

子どもたちの歓声、園内で催されるイベントや音楽の調べ、公園は人々が利用することで活気のある景観が生まれる。ウェルビーイングなライフスタイルに寄与する賑わいと交流の風景を創出

◆空間の骨格構成

地形的、景観的特徴を踏まえ、計画地が本来有していたポテンシャル（開放的台地形）を再生し、併せて久能寺の参詣道であった歴史性をモチーフとして空間にストーリー性を持たせ、公園区域の南側（富士山側）から、前庭、中庭、奥庭とし、各々のゾーンの特徴に合わせて施設を配置する。

前庭 ～富士に広がる展望～

富士山方向に大きく開けた緩傾斜の地形を生かした開放的な芝生地や花修景地として活用

中庭 ～広場に集う、まちの賑わい～

寺社の門前町を見立てとした来園者の集散の場、祭り・イベント空間や、茶屋などの飲食・物販施設を配置し、まちのにぎわいを創出

奥庭 ～歴史が伝える四周の眺望～

久能寺（現在は東照宮）への現代の参詣道であるロープウェイと、東照宮にあった五重塔をデザインモチーフとしたデジタル電波塔や、日本平夢テラス展望施設、日本平夢テラス展望回廊をシンボルとした静謐の園地として活用。



6 しずおか遺産認定制度

「しずおか遺産」は、「日本遺産」の県内版として魅力ある歴史文化資源を発信するための静岡県の認定制度。豊かな自然に恵まれ、様々な歴史的出来事が繰り広げられた静岡県は、歴史文化資源の宝庫であり、県内の魅力的な歴史文化資源を県内外の多くの人に知ってもらい、現地の来訪へつなげることを目的としている。令和5年度（2023）「日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊」というタイトルで、日本平は、しずおか遺産に認定された。ストーリーの概要は、「四周眺望の地、日本平。世界文化遺産の富士山を仰ぎ見る一方、眼下にはその構成資産となる三保松原など、古今名だたる景勝地を視界に収める歴史文化資産回廊である。日本平は、徳川家康ゆかりの久能山東照宮を始めとする歴史文化資産の集積地でもある。その歴史は、神話の時代に遡り、悠久の歴史の中でその眺望は人々を引き付けてきた。眺望に魅せられた古今の文化が日本平で受け継がれている。」とされている。

第9節 対象区域における主な現状変更と関連計画等の経過

現状変更と関連計画等の経過

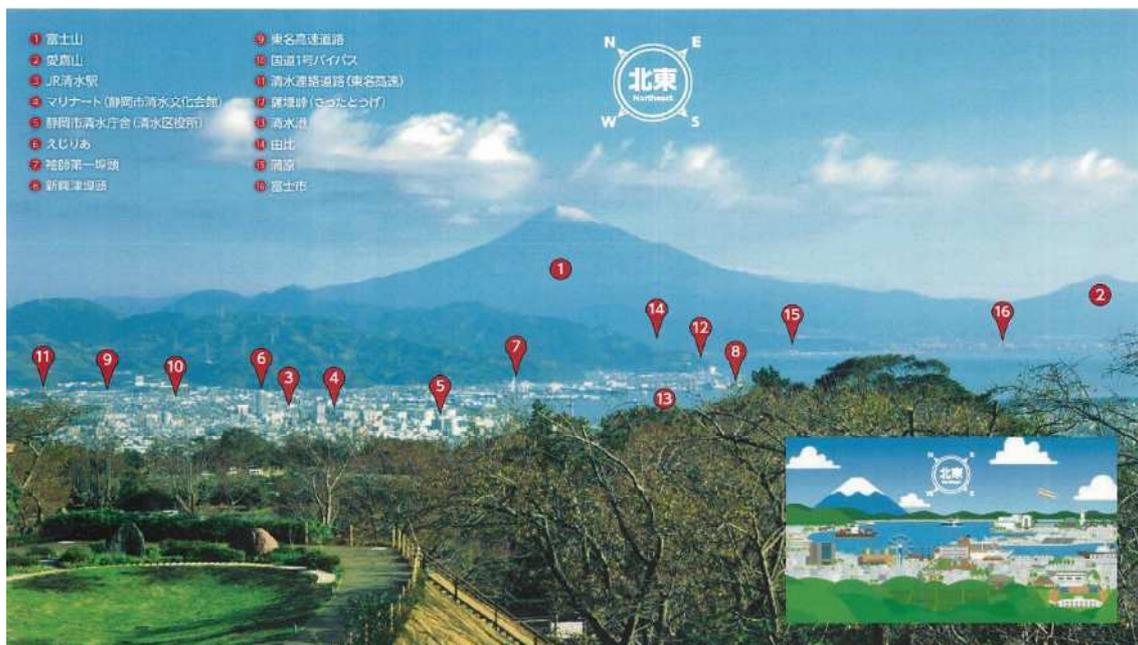
昭和7年	史蹟名勝天然記念物保存法第1条に基づく仮指定
昭和12年	都市計画法に基づく都市計画公園「日本平公園」となる。
昭和26年	日本平県立公園指定
昭和28年	県による山頂の土地の買い上げ 駐車場、公衆トイレ等公園整備
昭和32年	日本平と久能山を結ぶロープウェイが開通
昭和34年	名勝指定
昭和35年	日本平にプラネタリウムができる（日本平観光天文センター）
昭和37年	日本平パークウェイ起工式。39年開通
昭和47年	県立自然公園運営協議会発足
昭和58年	名勝日本平保存管理計画策定
昭和61年	有度山総合整備計画（県・市）基本構想・基本計画策定
平成4年	日本平公園基本構想・基本計画（県）
平成17年	山頂部 デジタルタワー建設
平成18年	日本平公園基本構想（市）
平成20年～	日本平公園基本計画に基づく山頂部の環境整備、駐車場整備
平成22年	名勝日本平保存管理計画に基づく現状変更規制地域の種別と規制基準の設定
平成29年	日本平公園第三駐車場
平成30年	日本平山頂部 日本平夢テラス展望回廊施設、平原ゾーン北東一部供用開始
令和3年	日本平ロープウェイ待合「門前の恵みたいらぎ」リニューアル（静岡鉄道）
令和7年	アクセス道路

第3章 名勝日本平の特徴

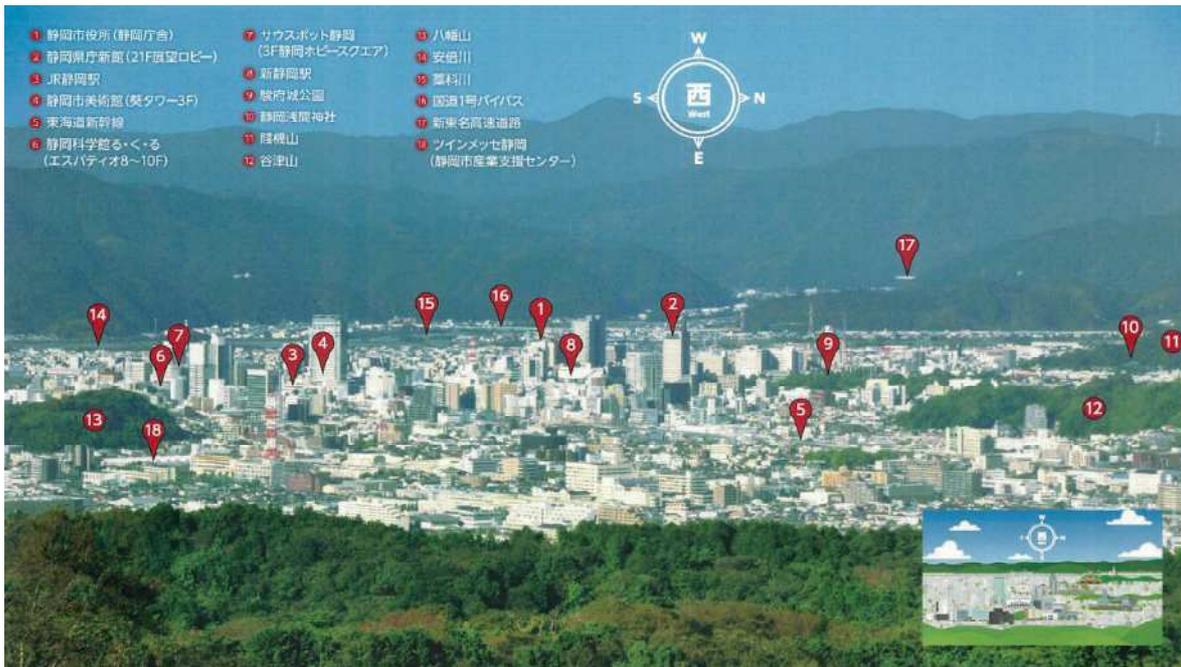
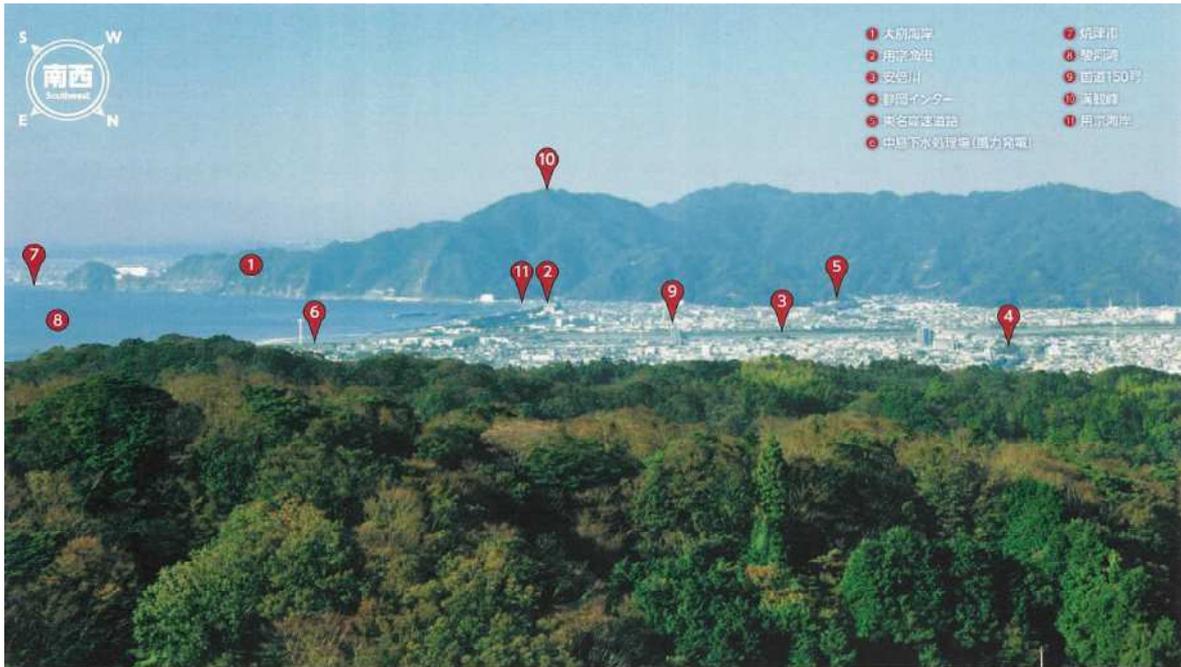
第1節 眺望

1 パノラマ景観

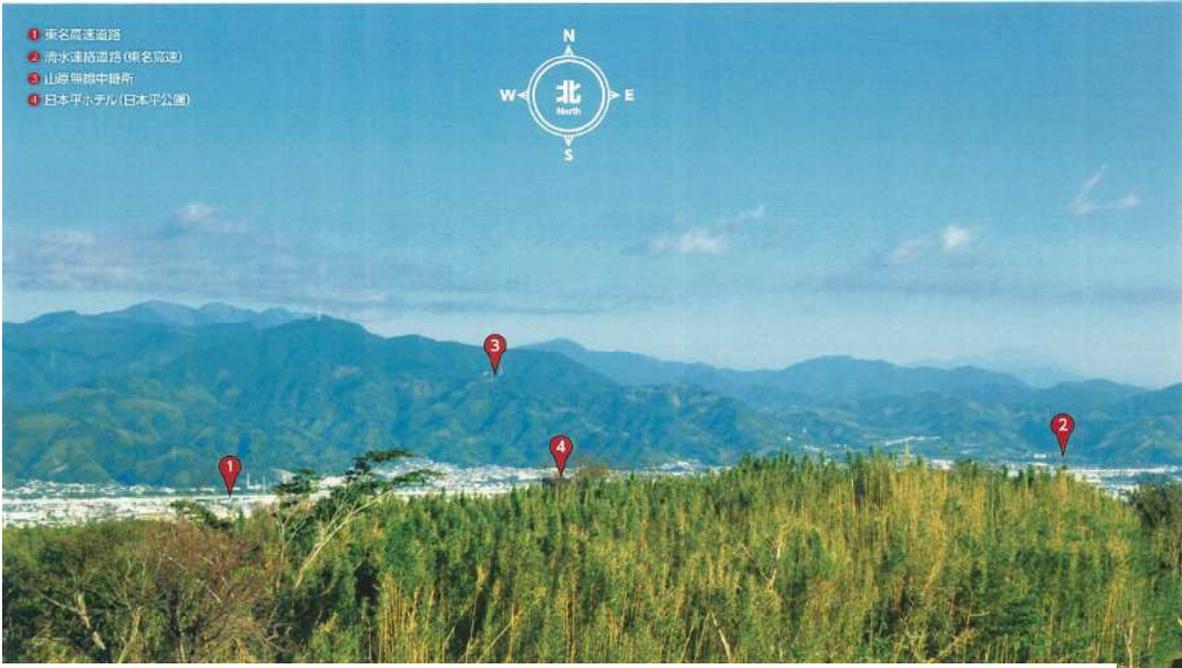
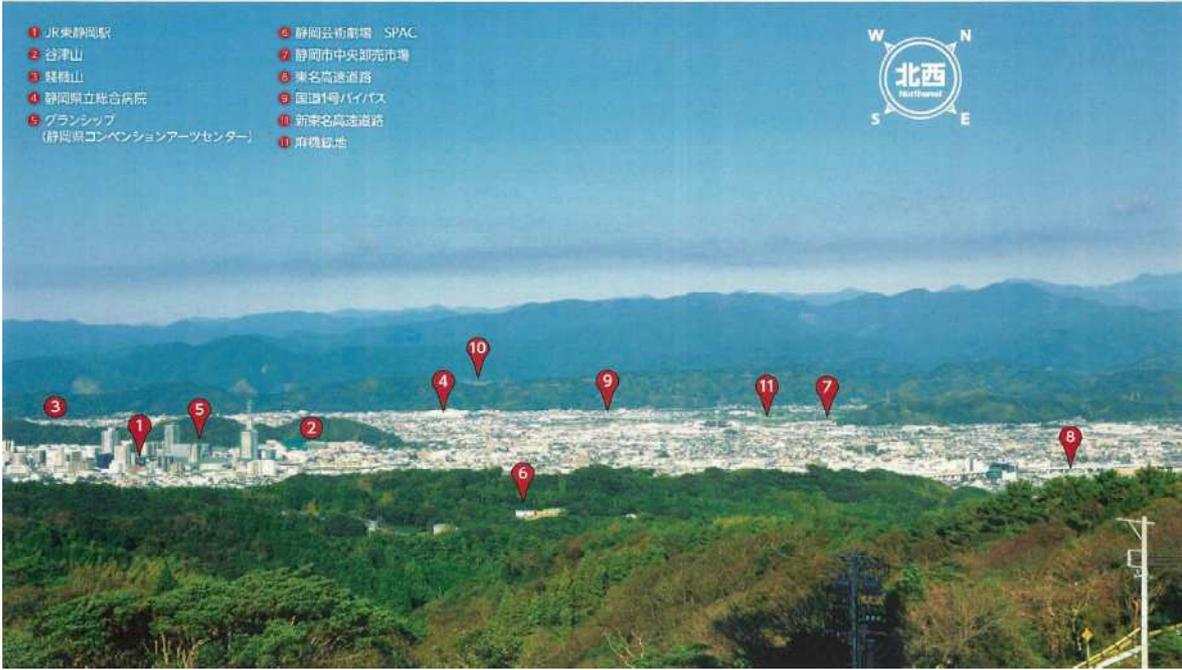
山頂からの眺望は、北東に富士山、清水港、三保松原、清見潟、南に久能山、伊豆半島から御前崎にかけて駿河湾一帯を望み、北西には赤石山系（日本アルプス）を遠望することができる。



展望回廊からのパノラマ風景（展望回廊に設置されている案内板より）



展望回廊からのパノラマ風景（展望回廊に設置されている案内板より）



展望回廊からのパノラマ風景 (展望回廊に設置されている案内板より)



大芝生広場からのパノラマ風景（北東方向）



大芝生広場からのパノラマ風景（東方向）

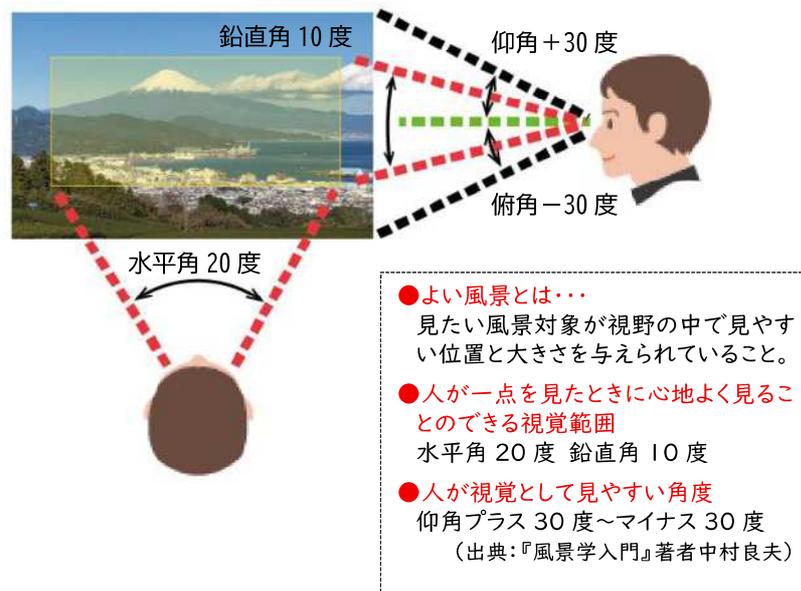
【景観の構造】

日本平の景観構造の大きな特徴は、本地の地形的特徴である山頂部の高位段丘面（日本平面）によって四囲の展望が開け、更に吟望台位置を頂点とした緩傾斜地であることで、俯瞰方向にも可視範囲が広がり、左右上下の視野の範囲に広がり感がある点にある。

特に富士山への眺望は、仰角（見上げ角度）4度（距離約4.9km、標高差3,500m）で山岳展望の理想的仰角（6度前後）からは、やや迫力にかけける山岳風景であるにもかかわらず、俯角（見下げ角度）2～5度前後（清水区三保の真崎 距離6900m、標高差297m、俯角：2.3度）（清水区入船町 清水マリナーパーク付近（水際線）：距離4265m、標高差-269m、俯角：3.6度）、（清水区村松原 村松原稲荷神社付近：距離2963m、標高差-261m、俯角：5.0度）にある清水港一帯の俯瞰景観によって目線より下の景観領域が確保され、上下の視野が広がり、本地ならではの観富景観を創出している。

俯角2～5度は遠景領域となり、観富景観が仰角4度と清水港一帯の俯瞰景観の俯角5度を併せて10度以内に収まり、人が一点を見たときに心地よく見ることができる視覚範囲（10度以内）となり、これは日本平の眺望景観の美しさを証明する。

また富士の裾野を隠すように二重三重に左から張り出す低山稜が景観に奥行き感を与える等、近景、中景、遠景の組み合わせの秀逸さが絵画的風景を作り出す要因となっている。（「平成19年度日本平公園基本計画報告書（静岡市）」に加筆）



2 徳富蘇峰選定の4つの眺望地点

大正15年（1926）、日本平へ初めて登った徳富蘇峰は、国民新聞に「天下の絶景日本平」と絶賛する記事を掲載した。これが日本平の名が全国に知られるきっかけとなった。清水市は登山道路（旧道日本平線）を作り、日本平の観光の発展を図るため、蘇峰に、眺望の良い地点4か所の選定と命名をしてもらい、昭和10年（1935）に望嶽台、吟望台、鐘秀台、超然台と名付け石柱を建てた。望嶽台は、有度山八合目付近の昭和9年開通の旧登山道（旧道日本平線）沿いにある。遠くに富士山と眼下に清水市街と清水港を望む。吟望台は、日本平山頂の日本平夢テラス展望回廊付近の広場にある。富士山をはじめ、360度のパノラマを見ること

が出来る。鐘秀台は、日本平の久能寄り南側の海食崖上先端にある。かつて、富士山側は富士山と三保松原を望み、久能側は、久能山との間の屏風谷、静岡市街地を遠望、さらに駿河湾とその先に御前崎灯台が見えた。超然台は、有度山最高地点 307m にあり、吟望台、鐘秀台との三角形の一頂点にたつ。かつては、四顧さえぎるものなき雄大な眺望と評され 360 度のパノラマが見られた。蘇峰も日本平の特質を四周の眺望ととらえ、その特質が良く表れた地点を 4 か所選定している。

第 2 節 環境

1 眺望地点としての「良好な環境」

昭和 26 年（1951）「日本平県立公園」指定以降、駐車場、公衆トイレ、芝生広場等が整備された。昭和 39 年（1964）に日本平ホテル（民間）が建設され、宿泊が可能となった。昭和 39 年日本平パークウェイが整備され、旧清水市側に先行して開通した道路は、旧静岡市側からも自動車で登ることができるようになった。平成 24 年（2012）からアクセス道路整備、平成 28 年（2016）から大芝生広場、園路、駐車場整備、平成 30 年度（2018）に、日本平夢テラス展望回廊の整備、山頂エリア園地が整備された。

眺望を觀賞できる環境整備が主に昭和 30 年代に実施され公園の姿として整い、平成 20 年代後半以降さらに山頂エリアの整備が行われ、名勝の価値を豊かに実感できる公園に整備されてきた。

2 景観形成に資する地形とイメージを維持する「茶畑」

日本平の景観は、黒ぼくといわれる柔らかい土壌と緩やかに傾斜する段丘面の地形の上に、背の低い茶樹の栽培、茶畑を営農してきたことにより、維持されてきた景観である。

有度山の山頂部は明治期になり開墾され、静岡の温暖な気候、日当たりが良くなだらかな丘陵地を利用して、お茶やミカンがつくられた。

「手前に茶畑、その奥に清水市街地と清水港、三保松原、その背後に富士山」という日本平の構図の一つは、観光地日本平のイメージとして広く知られている。日本平の景観は、今日まで茶畑（茶園）をつくることでその地形が維持されてきたことにより形成されたといえる。

静岡県は、全国の茶園の面積の 40% を占める日本有数の茶どころである。お茶づくりに適した温暖な気候と高い生産技術により、品質の高いお茶を生産している。

有度山の茶の歴史について『わが郷土清水』（鈴木繁三、1962 年）には「駿河風土記に享保年間（1716～35）有度山ろくの馬走・草薙・谷田・吉田・聖一色・池田・小鹿の村々で原畑や山畑を切りひらいて、お茶を植えたという記録がある。これからして、有度のお茶の歴史は、江戸時代の中ば頃から栽培をしていたことがわかる。」とあり、有度山の茶に関しては「静岡藩の士族によって開拓されたといわれている。それ以前の有度山は雑木の多い原野

で、少しばかり桑を栽培していたに過ぎない」と記述されている。また「日本平では、江戸幕末から既に茶の栽培が行われ、明治末期には新山茶^{しんやまちや}の名産地として知られていた」とある。

(五味響子「日本一の観光地『日本平』いまむかし」『季刊清水』第44号、2011年)

その後、明治初期に清水港が開港され、輸出茶の増加に刺激された茶商人や油問屋が山野の開墾による茶栽培を奨励したのが清水地域でお茶が本格的に栽培されるようになったきっかけとされている。昭和の始め、国の失業救済事業により、日本平登山道が完成し、荷車が有度山頂上まで上ることが可能になったことで、山地農業に大転機をもたらし、畑地への開墾造成が大いに進んだ。さらに、杉山彦三郎が有度山のふもとで「やぶきた」を発見、育成したことも影響して茶栽培が活発になった。現在「やぶきた」は日本茶を代表する品種となっている。静岡市駿河区谷田には「チャ樹(やぶきた種母樹)」があり、昭和38年(1963)に静岡県指定文化財に指定されている。やぶきた生誕100年を記念して、日本平地区で宮内庁への献上茶謹製事業が行われたこともある。北原白秋が作詞した「ちゃっきりぶし」の歌詞にも「日本平」「茶つみ」が登場することからも、日本平茶がメジャーであることがわかる。

『季刊清水』には以下のように記述されている。

「有度山は清水区では南側に位置しており、気候温暖なことから昔からミカンやお茶を主体に栽培されています。(中略)そして、頂上付近には眺めの良い茶園が現れます。この茶園もかつては小さな高低差があり園地は不ぞろいで作業効率が良くありませんでした。また、品質のばらつきもあり茶産地として課題を抱えていました。そのため、生産者の茶園改植への機運が高まり、頂上周辺の茶園を重機で削り取り、なだらかな園地にして新たに茶の苗を植えるなどして整備しました。整備後は広々とした茶園となり、作業効率はもちろん品質も安定した産地に生まれ変わりました。

頂上付近に広がる茶園は、村松地区の基盤整備地と同様にすばらしい景観が特徴で清水の市街地や三保半島、駿河湾と伊豆半島、さらに遠方に富士山を望むことが出来ます。新茶シーズンになると生産者だけでなく全国から来る観光客がここからの眺望を楽しんでいます。

このように、温暖な気候、肥沃な土地とめぐまれた自然を活かした有度山の農業地帯は観光と一体になっている産地でもあります。」

(杉山滋朗「自然を活かした有度山の農業地帯」『季刊清水』第44号、2011年)

近年は、茶の価格低迷や担い手不足により耕作放棄地となった茶畑が増えており、その再生を目的とした茶の木の抜根・改植(古い木から新しい木に植え替える)が進められている。静岡市では「静岡市茶どころ日本一計画」を作成し、静岡市を日本一の茶どころとして育て次代に継承していくための施策などを定めている。また、清水の茶農家によって富士山と茶畑の景観を守るための「静岡茶畑テラス再生プロジェクト」がクラウドファンディングによって現在進められており、景観を見渡せるテラスの修繕を中心に、テラス周辺茶畑の栽培効率化・改植(環境整備)、観光客にお茶を楽しんでもらう場作りなどを実施している。



茶畑と清水港と富士山（静岡市オープンデータ）



有度山麓の茶園
提供：所有園主 古澤重則氏

第3節 稜線美

日本平（有度山）は、静岡市の南部中央部分にゆったりと横たわる緑豊かな丘陵である。有度山は、山の多くの部分で農業林業の営まれてきた山であり、静岡市民にとって市街地に近接したふるさとのイメージを形成する重要な山である。

有度山は、富士山や360度のパノラマを眺望することができる「見る山」であるが、多くの市民から日々「見られる山」でもある。ここでは「見られる山」として、山頂の平坦地である日本平を形成している有度丘陵の稜線について記述する。有度丘陵は幾度かの海面の上昇・下降により土砂が堆積したり、侵食されたりしている。山の北(葵区)側から見ると、東西になだらかな稜線を描いている。西(駿河区)側から見ると、南側の久能山方面は隆起と海に削られたことでお椀型(ドーム状)の稜線に、北側はなだらかな稜線になっている。東(清水区)側から見ると、南側は起伏があり、北側はなだらかな稜線を描いている。そしてどの方面から見ても、山頂が平坦になっていることがわかる。

平地から山頂に向かうに従い、傾斜が急になるため、眺めとしては住宅地から少し傾斜がつきはじめたところに茶畑が、さらに急な所にミカン畑、そしてミカン畑より傾斜がついた所の大部分が森林となっている。

スダジイも有度丘陵(日本平)の稜線の景観形成に大きく関係している。スダジイはブナ科シイ属、関東以西の暖かい地方に生育する常緑広葉樹であり、果実は可食である。土壌が乾燥しやすい尾根でも生育でき、耐潮性を有する。有度丘陵(日本平)では、尾根の急斜面にスダジイが多くみられ、森林の最上層を形成する樹冠構成樹種であることから、稜線を形成する樹木として重要である。



【北側から】有度丘陵（日本平）の稜線（静岡県庁（葵区追手町）21階展望ロビーから）



【西側から】有度丘陵（日本平）の稜線（南安倍川橋（駿河区中島）から）

1 地形・地質

北東から南西側は、活しゅう曲をあらわすなだらかな丘陵であり、南東から北東側は、侵食によって形成された急峻な崖地である。山頂の台地状の地形、それに続くなだらかな斜面がいくつもの眺望地点を有する環境となる。

<地形>

有度山は、かつて平野だった一帯が、約10万年前頃、ドーム状隆起を始め、氷河性海面変動による海進、海退の影響を受けながら隆起を続け、現在の高さ307mに達した。ドーム状の隆起の隆起軸は、現在の有度山の頂上と久能山の頂上を結ぶ方向にある。海に面する東側は海食地形を残し、南側を削りながら海食崖を現在の位置まで後退させた。削られた砂礫は沿岸流で東に運ばれ、三保半島を成長させた。成長する三保半島によって、扇状地には静かな入江が作られ、背後の丘陵によって温暖な気候が保たれたと思われる。（茨城雅子『久能山誌』第一部第一章、静岡市2016年）

日本平は、有度山山頂部の台地面と丘陵地斜面、開析谷、南側の侵食崖で構成される。名勝中央部分の台地面は、北西に2度以上の緩やかに傾いた高位段丘面（日本平面）で、緩傾斜地とこれよりやや急な斜面地が交互に出現するひな壇状の地形を成している。南側の侵食崖は、屏風岩と呼ばれる礫層から成る比高40~50mの切り立った崖で、今なお崩落が進行している。屏風岩によって切り離された孤立峰が久能山である。日本平をつくる地層は、泥層、礫層が交互に重なっているが、礫層の礫の組成は、現在の安倍川下流部の礫組成と同じである。平坦な表面は、地層の堆積面となっていることから、過去の静岡平野の一部が隆起したものと考えられる。北東から南西側は活しゅう曲をあらわす、なだらかな丘陵であり、南東から北東側は、侵食によって形成された急峻な崖地である。

<地質>

有度丘陵をつくる地層は、下位から根古屋層、久能山層、草薙泥層、小鹿礫層、国吉田礫層の五つの地層が順に重なっている。

日本平においては、ほとんどが安倍川の氾濫による扇状地性河川堆積物である。厚さは約18mで西北に向かって厚くなり、この層の下位に久能山礫層、根古屋泥層が見られる。山頂一帯の土質は「黒ぼく」といわれる深い粘土層で、中腹から麓にかけ砂礫壤土層が多く、場所により砂利層、岩盤の地帯がある。



もちむねじょう
【西側から】用宗城跡（駿河区城山）有度丘陵と富士山（静岡市オープンデータ）



【東側 海上から】駿河湾から見た三保松原と有度丘陵（清水港周辺）（実習船「南十字」より撮影 東海大学海洋学部海洋理工学科）



【北東側から】清見寺「ちょうおんかく聴音閣」（清水区興津清見寺町）から見た有度丘陵

2 植物

日本平と三保松原は、昭和 26 年県立自然公園として指定され、その自然環境も保護されてきた。特別地域においては捕獲採取等を規制されている動植物のリストがある。植生は、茶や柑橘類の畑地とスギ、ヒノキの植林地、コナラやハゼノキ、シデ類などからなる落葉樹林、シイ、タブ林などの常緑広葉樹の二次林がほとんどを占める。一部人の手の及ばない急峻の場所にはタブノキやスタジイ、ヤブニッケイ、ヤブツバキ、クロガネモチなどからなる自然の照葉樹林も見られる。

<植生の現況>

観光地及び農地としての開発が進み、耕作地、修景緑地等の植生が占める。雑木林、植林、二次草地、農地等がモザイク状に混在する。

<植物>

植栽として、ソメイヨシノ・オオシマザクラが代表例である。自然林として、スタジイ・タブノキ・ヤブツバキなどがある。

貴重植物として、周辺で 115 科 437 種の植物を確認（平成 19 年度環境影響調査）。県条例で定める採取禁止植物は、ヤマツツジ、シュンラン、クロムヨウラン、コ克蘭の 4 種。主に台地外周の雑木林林床で個体を確認されている。

外周部の樹林地はアカマツ等二次林や、スギ、ヒノキ等人工林であるが、人の手が入らな

いため、アカマツ等は、ほとんどみられなくなり、照葉樹林への代替が進行している。

山頂部には、ケヤキ、サクラ、ウメ、イチョウ、ユリノキ等の樹木や芝生や草花など人の手が入った植栽空間が見られる。

公園内外全体にサクラが多くみられ、昭和9年（1934）日本平登山道（現旧道・清水日本平線）の開鑿当時、沿道にソメイヨシノの苗 700 本を植え、それ以来日本平は桜の名所となった。



サクラの様子（日本平ホテル提供）



照葉樹林（ロープウェイから見る日本平方向）

第4節 歴史的社会的要素

1 ヤマトタケル伝説

『日本書紀』や『古事記』に記される日本武尊^{やまとたけるのみこと}の伝説は、有度丘陵北部にあたる草薙周辺に数多く残っている。日本武尊を主祭神とする草薙神社は、かつて神社から日本平山頂部にかけて神社領として保有していたという。現在はハイキングコースとして整備がなされている。また、日本武尊が日本平で四方を見渡したという伝説も存在しており、草薙地区と日本平は、地理的な面、神話的な面の双方でつながりを有している。日本武尊の伝説は、有度丘陵北部にあたる草薙周辺に景行天皇が日本武尊を偲び、この地を行幸した時、鳳輦を留めた場所と伝えられる「天皇原」、日本武尊が征伐した賊徒の首を埋めたと伝えられる「首塚」、日本武尊が狩りをした時昼食に柳を折って箸とした場所「柳ヶ澤」など数多く残っている。



日本平公園内のヤマトタケル像

2 久能山、久能山東照宮

久能山は有度山の一部であり、屏風谷を挟んで日本平の南側に位置する。日本平からの南側眺望として、屏風谷、久能山、駿河湾、その先に西側に御前崎、東側に伊豆半島へと繋がる景色を望むことができる。日本平と屏風谷、久能山までは、史跡久能山として、名勝日本平と一体的に保護され、その景観が今日まで守られている。



ロープウェイから見る久能山と駿河湾

鐘秀台石碑隣の「BYOBU
(DANI カ) びようぶ (だ
にか)」石碑



3 アクセス手段

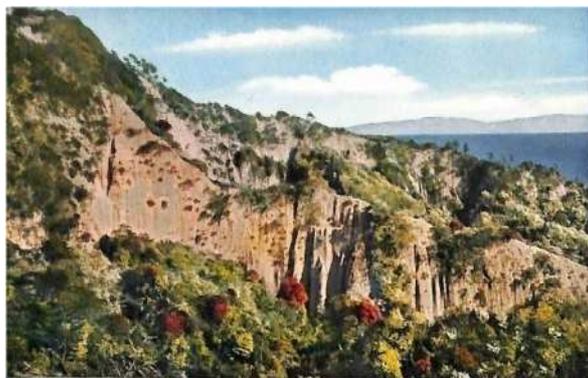
観光目的により、昭和9年(1934)に「日本平登山道路」(旧道)開通。昭和32年(1957)に日本平と久能山を結ぶ「日本平ロープウェイ」が開通。昭和39年に静岡側日本平パークウェイ、昭和47年(1972)に清水側日本平パークウェイが開通。観光のニーズの高まりにより、昭和の初めころより、交通アクセス手段が整備されてきた。

平成20年代以降は、平成21年(2009)富士山静岡空港が静岡県牧之原市に開港し、県外、海外からの来訪者のアクセスが向上した。令和元年(2019)、東名高速道路に日本平・久能山インターチェンジが開通し、東名高速道路からのアクセスが向上した。令和3年(2021)、中部横断自動車道が全線開通し、山梨県と静岡市の移動時間が短縮された。

日本平ロープウェイは、名勝日本平と史跡久能山とを結ぶ唯一の交通手段である。株式会社静岡鉄道が運営しており、ロープウェイからの眼下には、切り立った絶壁が屏風のように幾重にも重なる「屏風谷」と呼ばれる景勝地を空から観賞することができる。



日本平ロープウェイ



Byōbodani, Nippon-daira.

日本平(屏風谷)
有正山頂上百坪は大御座をなし、遠くを見
形成し四季の移りかはまた絶好である。

屏風谷（静岡県立図書館ライブラリー）

4 宿泊施設等

日本平山頂から北側へ緩やかに下った斜面上に位置する日本平ホテル（民間）は、日本平周辺では現在唯一の宿泊施設であり、ホテルの芝生庭園を前景として、清水市街地、清水港、三保松原、その背後に富士山全体の眺望を觀賞しながら宿泊することができる。

昭和 39 年（1964）『日本平観光ホテル』として開業し、その後、昭和 54 年（1979）に『日本平ホテル』へと名称を変更した。芝生庭園では野外コンサートなどのイベントを開催し、毎年 7 月、約 12,000 発の花火を打ち上げる『日本平まつり』の会場となっている。平成 24 年（2012）、全館建て替えを実施した。日本平ホテルは、日本平公園の一部となっており、公園利用者は日本平ホテル内にて、景色を觀賞することもでき、日本平の周遊をしながら景色を楽しむ一つの視点場となっている。そのほか、觀賞者のための食事場所、土産物店がある。



日本平ホテル外観
提供：日本平ホテル